

# 南伊勢町の交通施策について

- ・南伊勢町の概要
- ・安全安心のまちプロジェクト
- ・公共交通計画の策定
- ・地域の声を聴く、現場主義！



---

南伊勢町長 上村 久仁

# 南伊勢町の概要

南伊勢町は、三重県の中南部に位置し、町域の約6割が伊勢志摩国立公園に指定されている海に面した自然豊かなまちです。

少し足を伸ばせば、伊勢神宮や世界遺産熊野古道などもあります。漁業と農林業が基幹産業であり、特に漁業ではまき網漁業や養殖漁業が盛んで三重県下一の水揚げ高を誇ります。

- ▶平成17年に2町が合併
- ▶人口： 10,940人 (2023年11月末)
- ▶高齢化率： 52.9%
- ▶面積： 241.89km<sup>2</sup> (内宅地面積 2.51km<sup>2</sup>)
- ▶海岸線： 245.6km(三重県1,083kmの約1/4弱)
- ▶国道260号が町内唯一の基幹道路
- ▶鉄道が通っていない町



# 南伊勢町の産業・社会状況等

---

- 主要産業：まき網漁業（陸揚量全国10位：奈屋浦漁港）  
柑橘栽培 ※全国漁港漁場協会調
- 町内の集落数38集落 ※R5.11月末現在
  - 小売店舗が無くなった地区《20地区程度》
  - 高齢化社会《高齢化率50%超の地区が23地区》
  - 少子化社会《0～4歳がいない地区が11地区、0～14歳がいない地7地区》  
→ 極端なまでの急激な人口減少により将来コミュニティ機能を維持できなくなる可能性がある。
- 災害リスク（南海トラフ沖地震への脅威）

# 安全安心のまちプロジェクト

安全と安心を守り、幸せを実感するしやすいまちをつくる

町内公共交通機関の利便性の向上を図り  
「安心」「快適」「魅力的」な「おでかけ」  
を支える

特に、「南伊勢町地域公共交通計画」では、  
公共交通を利用する「**3K**」への働きかけに重  
点を対策を実施しています。

## 【南伊勢町の地域特性】

- ・ 広大な町域（国道260号線 宿浦～棚橋竈 52.2 km）
- ・ リアス海岸特有の入り組んだ地形に38集落が点在
- ・ 人口 10,940人 高齢化率 52.93%
- ・ 町外の高校へ遠距離バス通学。18歳まで地元で子育て
- ・ スーパー・医療機関が地域から撤退。買い物支援PJT

「高校生」の“快適”な通学、児童生徒の活動、  
“安心”して子育てできる環境の整備



1 *Koukousei*

「高齢者」など移動制約者のおでかけ機会を  
確保し、“安心”して生活できる地域



2 *Koureisha*

豊かな資源を生かした「観光」集客が交流を生み、  
地域が“魅力的”となるまちづくり



3 *Kankoukyaku*

# 南伊勢町の生活交通

地域公共交通計画  
令和2年度策定

## 【公共交通】

- ① 地域間系統路線バ
- ② 町営バス
- ③ 町営デマンドバス
- ④ 民間タクシー2社
- ⑤ 交通空白地自家用有償



磯部BC  
磯部駅  
鵜方駅

## 【その他移動手段】

- 福祉有償運送  
(社協外出支援)
- 病院ループバス
- 病院送迎マイクロバス
- 小中学校スクールバス
- 保育園バス
- 高校スクールバス
- その他 送迎バス  
など

# 利用者や事業者の声を最優先に

# 現場主義！



なかなか、思いを伝える機会がなかった  
(小中高生保護者)

高校通学便で  
「座れない」との苦情。  
補助席の活用



地域でバスの利用説明会！  
便利なところ  
不便なところ  
教えてくださいね。



いろんなバスが乗り入れるバス待合所が好評です。  
「ありがとう」



聞いてくれてありがとう  
(高齢者)



運行業務終了後、運転手さんとの懇談

住民懇談会の開催や運転手ヒアリング、地域の集まりや・バス停などでも意見収集。

# 交通事業者との連携



町営バス  
(三重交通株)



町営デマンドバス  
(大新東株)

苦情・意見報告対応情報共有  
年間利用券の統一化

交通障害の情報提供等



南伊勢町

スクールバス運行  
福祉輸送 社協  
NPOなど



町営バス  
(神前タクシー(有))

運転手の派遣協力等

# 事例1 阿曾浦・大方竈町営（小型）バス路線新設

## 小・中学生通学と高齢者の日常生活移動支援（R3年度～）

### 【いろんな場面での意見】

#### PTAと議会との懇談（H30）

小中学生が、スクールバス乗り場から自宅まで、遠距離を歩いている。漁村地区で、通学路が海に面した狭隘な道路。年少人口減少により、学年下校となると低学年が1人で帰宅。何とかならないか？

#### 阿曾浦・大方竈懇談会（R1）

阿曾浦地域が広く、お墓参り、ゴミ出し、買い物など、日常移動に高齢者が困っている。小中学生の通学路が危ない。地区本線に繋がるなら、乗り換えするよ。

### 【公共交通計画に記載、協議開始】 （R2）

以前からバスの欠かせない地域。小中学生の通学も、高齢者の日常移動も担う、狭隘な道路を運行できる定時定路線バスの運行について検討。地域を訪問し調査、関係機関と協議を開始。



### 【本稼働を見据えた実証運行開始】



出発式  
（R4.1）  
有償で運行

### 【本稼働】（R4.4）

### 【ダイヤ改正 支線統合】（R5.10）

地区本線へ接続する阿曾浦線と、大方竈線を統合。南島メディカルセンターまで直通運行とし本路線を阿曾浦に入らず大幅な運行時間短縮を実施。

# 事例 2 南島西巡回バスモデル事業

## 買い物不便・困難対策プロジェクト（R4年度～）

### 【いろんな場面での意見】

#### 地域の声（R4）

南島地区で、スーパーの撤退が進む。買い物できないとの声が出てくるようになった。

#### 総合計画策定委員会（R4）

医療機関、買い物が不自由な地域が増えてきた。快適な移動手段確保が望まれる。

### 【地元企業の存在】

神前浦地区には、住民生活に欠かせない地元タクシー会社や、小型スーパーがある。人口減少やコロナ禍を乗り越え、地域での頼もしい存在。

### 【総合計画に明記】（R4）

総合計画に、「買い物不便・困難対策プロジェクト」が重点支援として明記された。地域への聞き取りや、地元区や小売店との連携を強化し、バスルートの検討に着手。地元タクシーを活用した小売店と周辺地区を結ぶ路線と、一部時間帯に町営バスを小型化して狭隘な地区へ乗り入れる路線を隔日で、無償実証運行を決定。

### 【本稼働を見据えた実証運行開始】

出発式（R5.2）  
無償で運行  
R5.4～R5.10  
実証運行延長



### 【住民意見を聞く】



各地域の高齢者が集まる場に伺い、実証運行についての意見を聞く。

### 【ダイヤ改正 支線統合・新設】（R5.10）

本計画にある利用の少ない神前柏崎線と、実証運行での狭隘な地区への乗り入れをバスを小型化し統合。また、好評だった地元タクシー周回ルートは定時定路線での有償運行を開始した。

# 事例3 通年事業（バス待ち環境整備、利用促進など）

## バスと言う選択肢。皆さんにご利用いただくために。

### 交通体系再構築と併せて実施する事業。

#### 【バス待ち環境の整備】



バス待ち環境は大切です。  
できるところは職員で！  
経費を抑えて、快適に。

#### 【啓発・利用促進事業】



三重交通(株)とバスの乗り方教室実施。  
広域路線バスとのシームレスな時刻表作成。  
乗換えアプリのエクセルデータを三重県に提供。

古和直通	古和直通	古和直通	←行先
16:54	...	...	イオン伊勢店
17:20	...	18:25 19:05	伊勢駅前
17:48	...	18:53 19:33	伊勢市駅前
18:10	...	19:15 19:55	医会特別支援学校前
18:18	...	19:23 20:03	中村
18:19	...	19:24 20:04	伊勢パーク口
			南島道方(着)

  

古和	南西線	高島道方	古和	古和	←行先
	南西線	高島道方			伊勢駅前
18:42					伊勢駅前
18:43					伊勢駅前
19:02					伊勢駅前
19:18					伊勢駅前
19:19					伊勢駅前
19:23					伊勢駅前
19:24					伊勢駅前
18:22					南島道方(着)
					南島道方(発)
18:24					伊勢駅前
18:25					伊勢駅前
18:30					伊勢駅前

# 「私たちの元気」で 「輝き」を「未来」

美しい入り江、  
登下校する子どもたちと、畑で、海  
何気ない日常の風景や人の営みの

今私たちが幸せを感じる、南伊勢町の姿は、このまちのために力  
私たちが大切にしてきたのは  
私たちは、いつまでも一人ひとりの「人」と「暮らし」を大切に、人とともに  
まちが成長し続け、時代が変化する中でも、ここで暮らす

そのため、今回の計画は、今までつないできた  
まちのめざす姿を「私たちの元気」で輝きつづける

# 輝きつづけるまち へ受け継ぐまち

豊かな里山。  
で、まちで、額に汗して働く人たち。  
中に幸せを感じる瞬間があります。

を発揮してきた一人ひとりの輝きによってもたらされています。  
一人ひとりの「人」と「暮らし」。  
輝き、成長していくまちを次の世代にも引き継いでいきたいと願います。  
人が幸せを感じ続けられるまちでありたいと願います。

これまでのまちづくりを大切に、発展的に継承し、  
まち「輝き」を「未来」へ受け継ぐまち」とします。

「オール南伊勢」で取り組んでいます  
ご清聴ありがとうございました